

東議員（民主県政会）

令和元年 9 月 26 日

教育長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）定員内不合格の見直しについて

高等学校入学者選抜制度の見直し検討に当たり、誰一人取り残さない広島県教育を実現していくためにも、募集定員の中でしっかりと入学希望者を受け入れ、学び、成長を支援していくことが「広島で学んで良かったと思える教育県の実現」につながると考えるが、教育長の見解を伺う。

（答）

全ての生徒が希望する進路を実現し、自己の興味・関心、能力・適性、進路等に応じて、学び、成長していくことが「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現」につながると考えております。

高等学校への入学は、その教育を受けるに足る能力・適性等を判断して校長が許可するものであることから、定員内でありましても、やむを得ず不合格となる場合もあると考えております。

しかしながら、中学校卒業段階で多くの進路未決定者がいることは、大きな課題であるにとらえており、校長会等と連携しながら、進路未決定者の解消に向けて取組を進めているところでございます。

新たに開校した広島みらい創生高校におきましては、選抜（Ⅲ）を他校より後に実施することにより、学ぶ意欲のある子供たちの受検の機会を確保しているところでございます。

また、高等学校入学者選抜制度の改善「素案」におきましても、学校・学科ごとにスクールポリシーや育てたい生徒像、入学者選抜に関する方針などを明確にした上で、各学校の特色に応じた入試を実施することにより、生徒が自分の希望に合った学校選択が可能となるよう選抜制度の検討を行っております。

教育委員会といたしましては、学校教育におきまして、生徒に希望する進路の実現に必要な学力を身に付けさせるとともに、学ぶ意欲を高めることにより、全ての生徒が希望する進路を実現できるよう、取り組んでまいります。